

令和 7 年 6 月 12 日現在

機関番号：72696

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2024

課題番号：21K03059

研究課題名（和文）COVID-19対応医療従事者の心理的特徴と有効な臨床心理学的支援

研究課題名（英文）Psychological characteristics and effective clinical psychological support for healthcare workers responding to the Coronavirus (Covid-19) pandemic

研究代表者

矢崎 大 (Yasaki, Dai)

（財）冲中記念成人病研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：40807111

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：COVID-19に対応した医療従事者を対象に、質問紙およびインタビューによる調査を実施した結果、パンデミックの初期と後期とで医療従事者のストレス状況に変化があったこと、特にウイルスの特性や組織の感染対策の指針が不明瞭であった初期に対応した医療従事者の負荷が強く、その心理的影響は長期に及ぶ可能性が示唆された。

また、COVID-19を経験した医療従事者の心的外傷後成長に関連する要因を調査した結果、スティグマ、道徳的傷つき、ソーシャルサポート、肯定的再解釈といった変数が外傷後成長を予測することが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、COVID-19を経験した医療従事者がどのようなストレスを感じ、どのようなサポートを有効と感じたかを質的、量的データを元に提示したほか、COVID-19の経験に幾つかの要因が随伴することで、それが単なるストレスにとどまることなく、医療従事者の心理的成長にも繋がる可能性を示唆した。

本研究成果は、今後起こりうる未知の感染症流行において、医療従事者のメンタルヘルスを維持する施策を考える上で、有用な視点を提供するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The results of a questionnaire and interview survey of healthcare workers who responded to COVID-19 indicated that there were changes in the stress conditions of healthcare workers between the early and late stages of the pandemic, and that healthcare workers who responded in the early stages, when the characteristics of the virus and organizational infection control guidelines were unclear, were particularly burdened, and the psychological impact of this stress may be long-lasting.

In addition, a study of factors associated with posttraumatic growth among health care workers who experienced COVID-19 indicated that variables such as stigma, moral injury, social support, and positive reinterpretation predicted posttraumatic growth.

研究分野：臨床心理学

キーワード：COVID-19 医療従事者 メンタルヘルス

1. 研究開始当初の背景

2019年12月に中国武漢市で確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020年以降世界的な感染流行を引き起こし、その対応に当たる医療従事者のメンタルヘルスに多大な影響を及ぼした。最前線の医療従事者に不眠、不安、抑うつといった症状が認められることはパンデミック初期から報告されており、医療従事者のメンタルヘルスの状況を調査し、それに対する有効な心理支援を検討することは、今後起こりうる同様の感染流行において医療従事者のメンタルヘルスを守る上で、重要な指針を提供するものと考えられた。

2. 研究の目的

COVID-19を経験した医療従事者の体験（業務内、業務外のストレスやストレス反応、周囲から提供されたソーシャルサポート、COVID-19に対応したことで得られた外傷後成長等）を質問紙および半構造化面接を通じて調査すると同時に、研究者らが実施した医療従事者への心理支援の内容を振り返ることで、未知の感染流行時に医療従事者が必要とする心理支援のあり方を検討することを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

(1) COVID-19の対応に当たった看護師を対象に、当該業務に関連するストレスやストレス反応に関する質問紙調査を実施し、因子分析によって抽出された各因子と看護師の属性（所属部署、経験年数等）との関連を検討した。

(2) 2020年4月～2021年5月にかけて研究者らが実施したCOVID-19対応医療従事者への心理面談の内容を整理し、実施時期によって医療従事者が訴えるストレスやストレス反応の内容に変化がないかを検討した。

(3) COVID-19流行期に総合病院に勤務していた看護師を対象に質問紙調査を実施し、心的外傷後成長とそれを促進する要因（ソーシャルサポート、スティグマ、道徳的気づき、コーピング等）との関連を検討するため、重回帰分析を行った。

(4) COVID-19を経験した看護師を対象に半構造化面接を実施し、個々の看護師がCOVID-19の感染流行をどのように経験したのか、特にそれぞれが周囲からどのようなソーシャルサポートを得ていたのかを調査し、未知の感染流行時に医療従事者が必要とするソーシャルサポートの内容を検討した。

4. 研究成果

(1) COVID-19に対応した看護師のストレスとしては、職場における余裕のなさ、COVID-19による制限、職場環境の変化の3因子、ストレス反応としては、身体的ストレス反応、心理的ストレス反応、ショック反応の3因子が抽出された。また、抽出した各因子と調査対象者の所属部署や看護師としての経験年数等の要因との関連を検討したところ、院内の感染対策や診療体制が十分に整わない初期にCOVID-19対応に当たった看護師は、それ以降に対応した看護師よりも強いストレスを感じていたことが示された。また、高ストレス群では、手当てがつかないこと、残業時間が少ないこと等がストレスの緩和に繋がっていないという結果も示され、従来のストレスモデルでは十分に捉えきれない問題も示された。

(2) COVID-19対応医療従事者に研究者らが実施した心理面談の内容を整理したところ、面談初期には感染不安や慣れない防護服着脱に伴う身体的ストレスが話題に上ることが多かったが、中期・後期の面談では感染不安は背景に退き、COVID-19感染流行に伴う生活や行動の制限によるストレスが話題の中心になるという変化がみられた。心理面談では、各医療従事者のストレス状況を整理し、各人の強みを見つけ、保障するかかわりを継続したが、このようなかかわりに関しては一定の成果があったと考えられた。

(3) COVID-19流行期に総合病院に勤務していた看護師の心的外傷後成長を質問紙調査によって検討したところ、同居人あり、スティグマ、道徳的傷つき、ソーシャルサポート、肯定的再開者の5つの変数が有意に心的外傷後成長を予測することが示された。心的外傷後成長のモデルでは、人が自身の世界観を揺るがされるような出来事を経験することから、そのプロセスが始まっている（宅,2021）。コロナ禍において、看護師が自身のスティグマを意識したり、道徳的傷つきを感じたりすることは、本人の自己感を危うくするような事態であり、これらが外傷後成長を予測するという本結果は、このモデルに沿うものと考えられた。また、このモデルでは、打ち砕かれた世界観等を徐々に見直していくことになると考えられているが、肯定的再解釈というコーピングはこれを促進する可能性があることが示された。

(4) COVID-19を経験した看護師を対象に半構造化面接を実施し、その語りの内容を類似性から分類したところ、上司からの相談、傾聴を中心としたサポートは安心感を、同僚との同志的な関係性は連帯感を、家族・友人からの普段と変わらない関わりは基本的な支えを看護師に提供していたことが示された。また、一部の参加者の語りから、COVID-19の感染流行から5年弱が経過した時点においてもなお、当時の体験に対して広い意味でのトラウマを有している看護師がいることが想定され、未知の感染流行時に医療従事者のメンタルヘルスを支援する視点として、危機の最中だけでなく、危機が去った後の個々のナラティブをも視野に入れたトラウマインフォームドケアが求められることが示された。

<引用文献>

宅香菜子 2021 コロナ禍と心の成長 日米における PTG 研究と大学教育の魅力 風間書房

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 館野由美子、矢崎大、長谷川久巳、大前晋、五嶋由紀子、安井玲子、林田由美子、黒柳洋弥	4. 巻 70(2)
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症患者に対応している看護師の心理的特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共済医報	6. 最初と最後の頁 155-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 毛利伊吹	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 〔海外文献抄録〕医療従事者の精神的健康に及ぼすcovid-19パンデミックの影響と支援のための介入：系統的レビュー（速報）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢崎大	4. 巻 48(1)
2. 論文標題 〔海外文献抄録〕最前線の従事者が必要とする支援とは？ COVID-19パンデミック時の心理社会的支援に関する医療・社会福祉従事者の経験と見解に関する質的研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 毛利伊吹、酒井由美子、館野由美子
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症を経験した看護師の心理的特徴 スティグマや道徳的傷つき、ソーシャルサポート、コーピングは心理的成長に関連するの
3. 学会等名 日本心理臨床学会第43回大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 館野由美子、矢崎大、佐藤夏美、酒井由美子、吉村聡、毛利伊吹
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症患者に対応する看護師の心理的特徴
3. 学会等名 日本心理臨床学会第41回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢崎大、館野由美子、佐藤夏美、酒井由美子、吉村聡、毛利伊吹
2. 発表標題 COVID-19対応医療従事者へのメンタルヘルス支援 総合病院における心理職の取り組み
3. 学会等名 第35回総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 館野由美子
2. 発表標題 コロナ禍における医療従事者のストレスマネジメント
3. 学会等名 第16回東京都医学検査学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢崎大
2. 発表標題 医療従事者のメンタルヘルス支援：虎の門病院における公認心理師の取り組み
3. 学会等名 第16回東京都医学検査学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢崎大
2. 発表標題 コロナ禍を経験した看護師の語り ソーシャルサポートの視点から
3. 学会等名 第43回日本社会精神医学会
4. 発表年 2025年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	毛利 伊吹 (Mohri Ibuki) (20365919)	(財) 冲中記念成人病研究所・その他部局等・研究員 (72696)	
研究分担者	酒井 由美子 (Sakai Yumiko) (50772399)	(財) 冲中記念成人病研究所・その他部局等・研究員 (72696)	
研究分担者	佐藤 夏美 (Sato Natsumi) (50807112)	(財) 冲中記念成人病研究所・その他部局等・研究員 (72696)	
研究分担者	館野 由美子 (Tateno Yumiko) (80570449)	(財) 冲中記念成人病研究所・その他部局等・研究員 (72696)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------